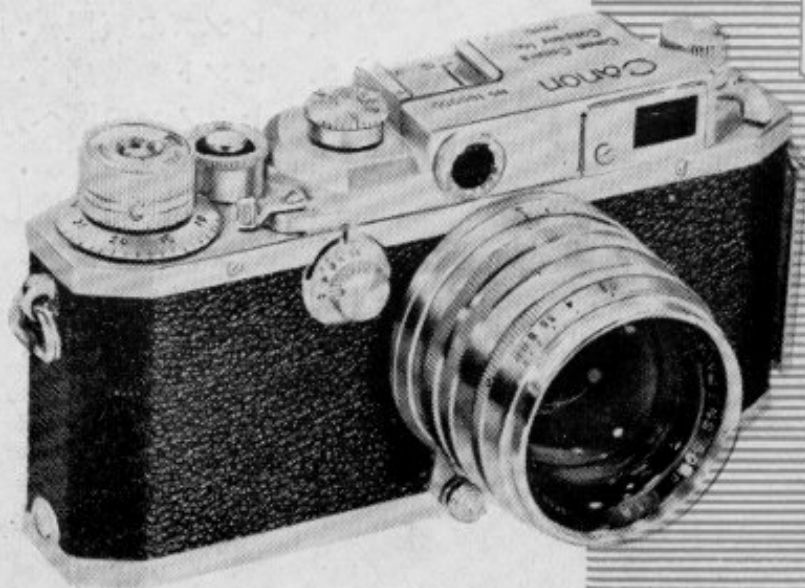


Canon



model IV-Sb



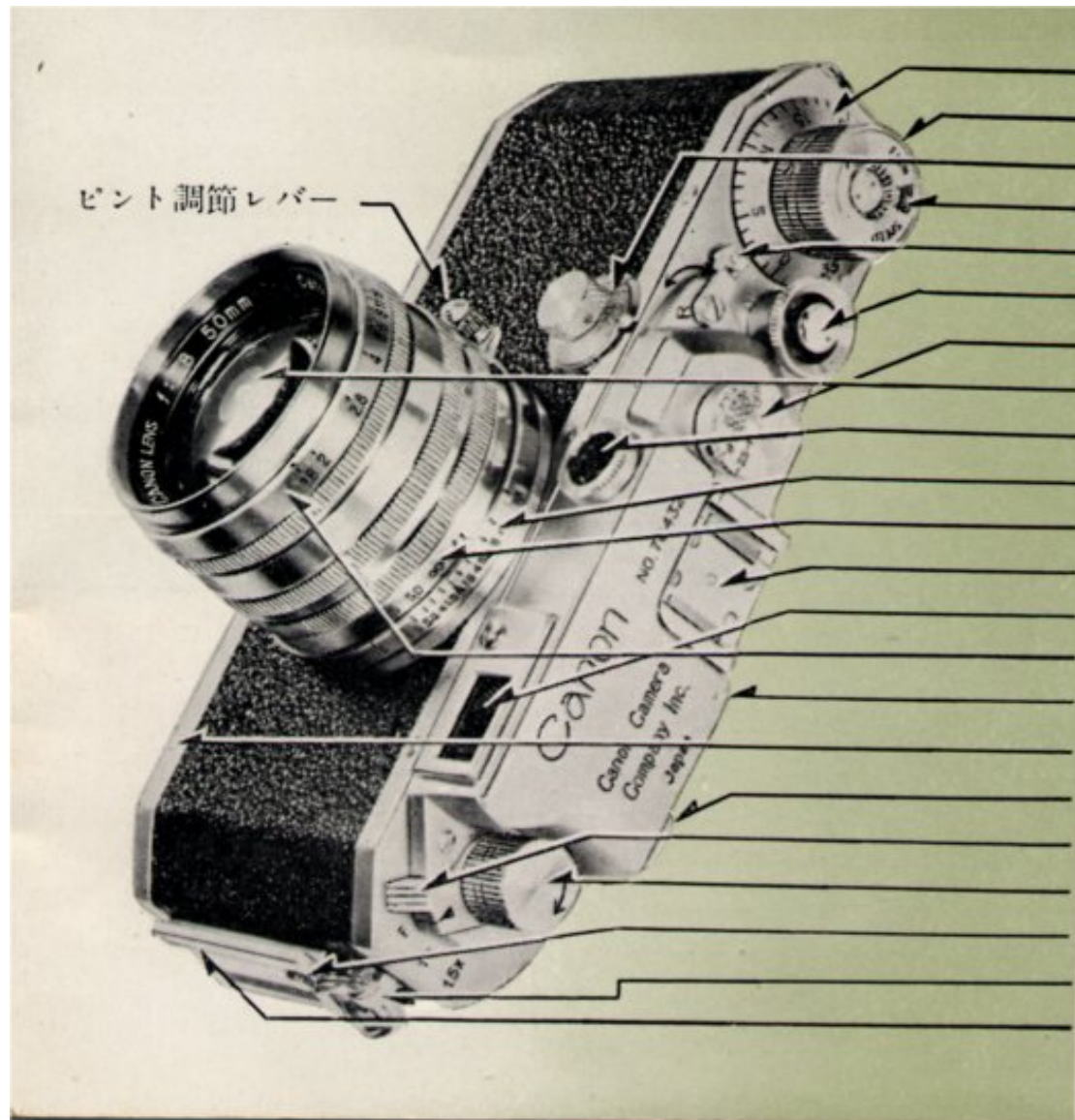
Canon

一九三五年最初のキヤノンが世に出た頃は我が国のカメラ工業も技術的に低く、しかも間もなく発生した事変、引続いての大戦はカメラの製作に極度の不利を来しました。この困難な状況下にあつてキヤノンは黙々としてこの高級カメラの研究製作に努めたのでありますが、その成果は終戦を迎えるや、いち早く進駐の米軍将兵によつて真価を認められ、伝えられて其の名はアメリカ本国にあまねく、更に進んで世界の他の国々に及んだのであります。

かかる誇を以て、なおこの結果に満足することなく、キヤノンは日夜鋭意その改良に努力しておりますが、その性能に対する自信は、我が国最初の長期五ヶ年間品質の保証を御約束するに至りました。

現在キヤノンは使用材料に対してはすべて美観と耐久力とに特別の考慮を払い、又その製作はレンズ研磨からカメラの組立調整まで一貫作業によつて行われ、部品から成品に至る間、工程毎に大小数十回に及ぶ光学的機械的検査を経、更に完成の後一分間三千回の震動試験各スピードに対するシャッター試験、同調試験、撮影試験を行い、レンズ及び機体の番号別保存カードにその成績を記録し、最後に機能、外観に付精細な完成検査を受けて合格したもので、従つて十分御信頼を戴けるものと存じます。何卒永き御愛用を御願い申上げます。





- 枚数盤
- 捲取りつまみ
- 低速シャッターダイヤル
- フィルムスピード表示盤
- 捲戻しレバー
- シャッター押ボタン
- 高速シャッターダイヤル
- キヤノンレンズ
- レンジ・ファインダー窓
- 被写界深度目盛
- 距離目盛
- アクセサリークリップ
- レンジ・ビューファインダー窓
- 絞り目盛
- フィルム マーク
- 底蓋
- レンジ・ビューファインダー覗き窓
- レンジ・ビューファインダー変倍レバー
- 捲戻つまみ
- 端子
- 提革用吊環
- フラッシュユニット用ブラケット

目次	1. キヤノン撮影の手順	5
	2. フィルムとシャッターの捲上.	6
	3. シャッターの調節	7
	4. レンズの取扱	9
	5. ピントの調節	12
	6. キヤノンの構へ方	19
	7. フィルムの装填.	21
	8. フィルムの捲戻し	26
	9. レンズの交換	27
	10. フラッシュの同調	29
	11. 特殊の操作法	31
	12. キヤノン専用マガジンとフィルムの詰め方.	33



キヤノン成品検査の一例

1. 特殊チャートによるレンズの投影検査
2. 総合的撮影検査
3. シヤッタースピード検査
4. フラッシュ同調検査



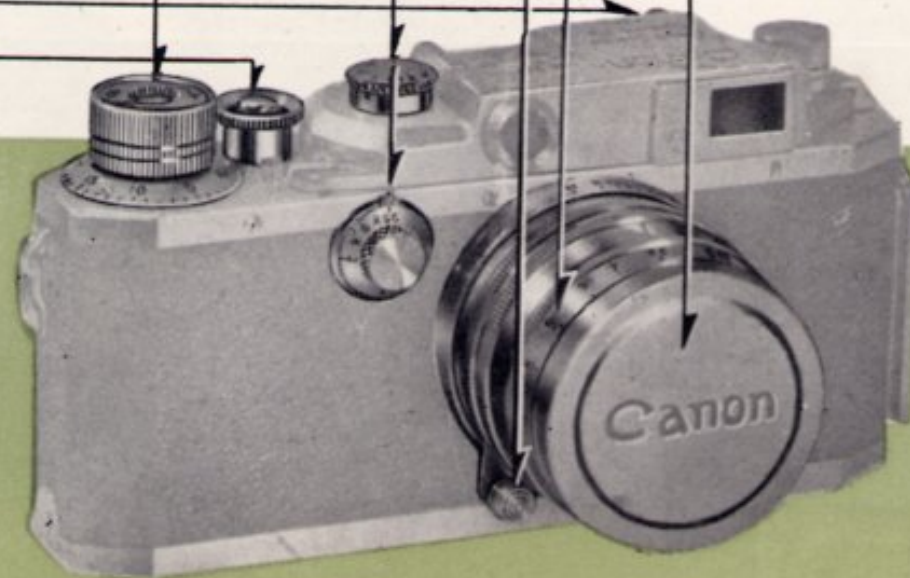
1

キヤノン撮影の手順

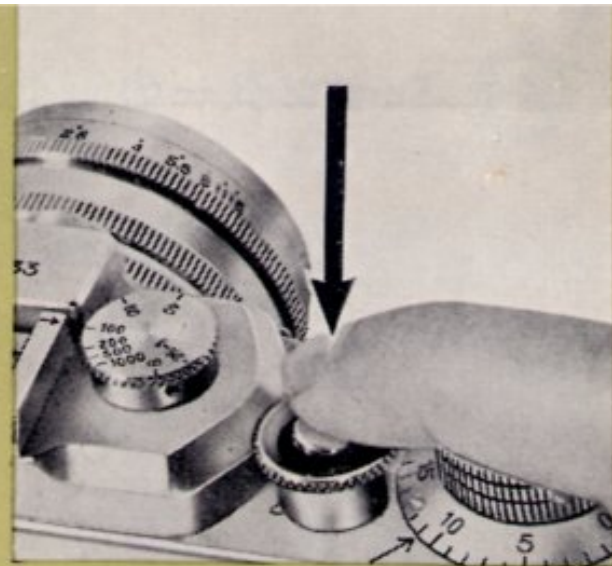
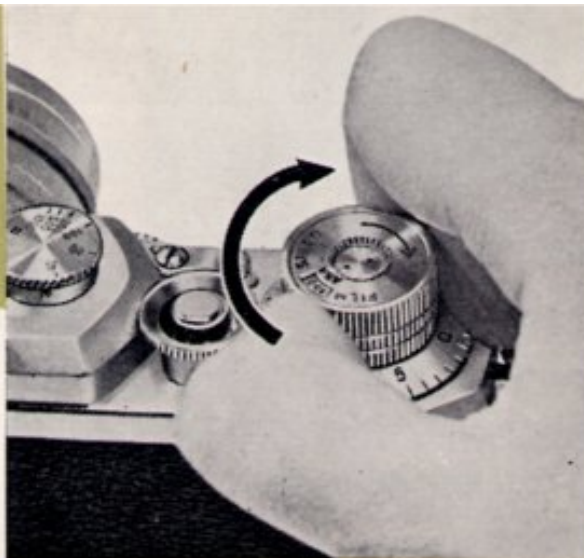
1. レンズキャップを取外す
2. レンズを引出して廻らす
3. 捲取りつまみを廻らす
4. シャッター速度をきめる
5. 絞り目盛をきめる
6. 被写体にピントを合せる
7. 構図をきめる
8. 最後にシャッター押ボタンを押す



50 mm f:3.5
レンズ



② フィルムとシャッターの捲上



捲取つまみ 矢の方向に止るまで 廻します。これでフィルムが一齣分送られると同時に、シャッターが捲上げられます。

フィルム枚数盤 捲取つまみを廻すごとに、枚数盤は自動的に一目盛つつ進み撮影枚数を示します。捲戻レバーがAにセットしていないと、捲上げができません。

シャッター押ボタン を押すとシャッターが働いて露出が与えられ、再び次の捲上げができるようになります。シャッターは捲取つまみを廻さなければ、はたらきませんから二重露出が防げます。ケーブル リリースを取付ける場合は、シャッター押ボタンにかぶせてねぢ込みます。



キヤノンには

高速シャッターダイヤル

と低速シャッターダイヤルとがあつて高速ダイヤルは 1/25, 1/40, 1/60, 1/100,

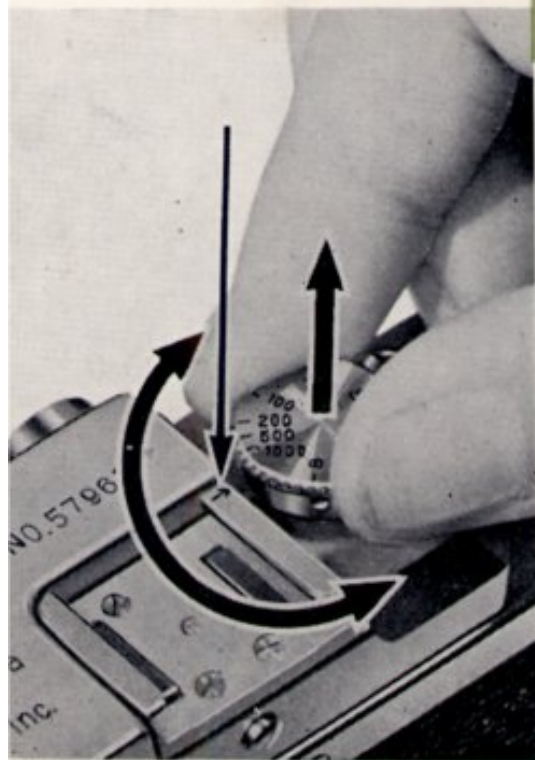
1/200, 1/500, 1/1000 秒 (II-D では 1/500 秒まで) 及 B (バルブ) 低速ダイヤルは 1/25-1 秒及 T (タイム) の調節をします。

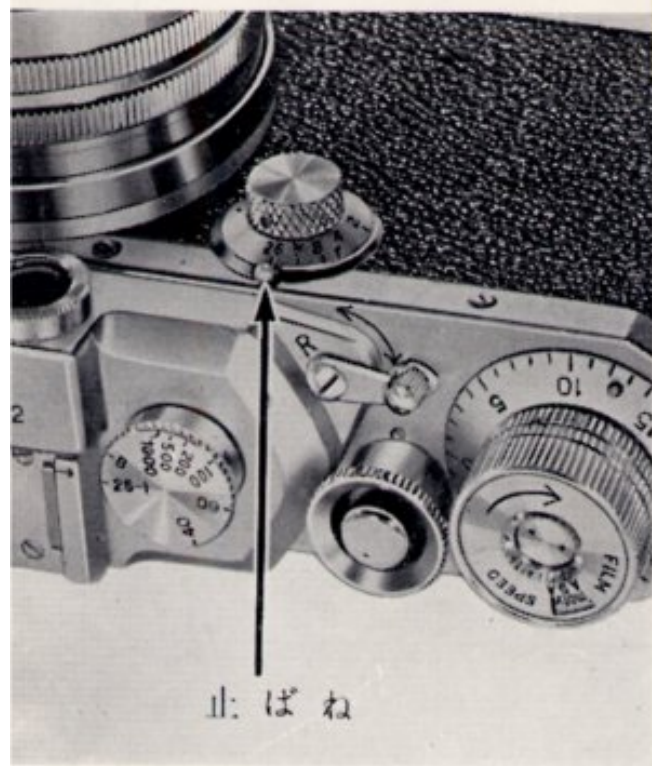
高速シャッターダイヤルの調節をするには、ダイヤルを僅かに引上げて廻し必要な目盛を指標に合せて、元の位置に落込ませます。

高速シャッターダイヤルの調節には、捲取つまみを完全に捲上げておく必要があります。

高速シャッターを作動させる場合は低速シャッターダイヤルは 25 の赤目盛にセットしておきます。

1/1000 秒のときだけはダイヤルが、他のスピードの場合と違って半分しか落込みません。





低速シャッターダイヤル は指標が、止ばねを兼ね、1/25 秒の位置で止ばねが、かかっていますから指先で、これを後へ押しつながらダイヤルを廻して、のぞみの目盛に合せます。(II-D では止ばねはありません。)

低速シャッターを作動させる場合、高速シャッターダイヤルは必ず25-1の赤目盛にセットしておかねばなりません。

B (バルブ) と T (タイム) 高速シャッターダイヤルをBに合せたとき(低速シャッターダイヤルは25)は、シャッター押ボタンを押している間、シャッターが開いていますから1秒以上の露出に用います。低速シャッターダイヤルをTに合せたとき(高速シャッターダイヤルは25-1)は押ボタンを押すとシャッターが開き放しとなりますから、所望の露出後、低速シャッターダイヤルを1秒の目盛の方へ静かに廻してシャッターを閉じます。レンズシャッターと違って押ボタンを再度押しても作動しません。

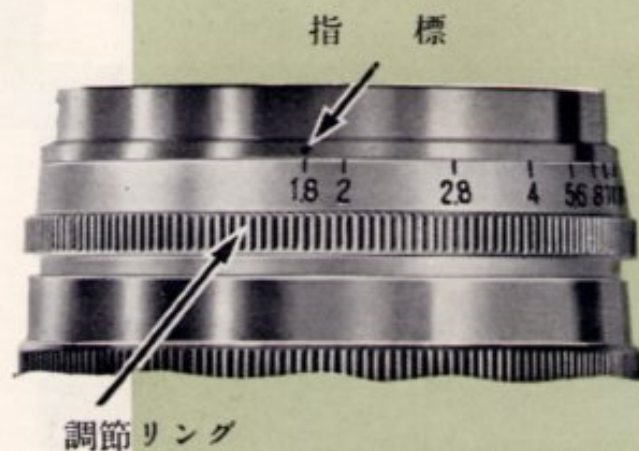
④ レンズの取扱

レンズの絞り目盛 レンズの絞りはフィルムに達する光の量を調節し、又被写界の深度を調節します。絞りは調節リングを廻して適当な目盛を指標に合せます。

絞りはその数値が大きくなるに従ってレンズが暗くなり、目盛の一段毎に明るさが、半減する様になっています。従って絞りを一目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、二目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。例えば絞り5.6で1/200秒が適正露出のとき、絞りを8に変えればシャッタースピードは1/100秒に、又シャッタースピードを1/500秒にすれば、絞りは4と2.8との間、約3.5にするのが適正です。

シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合はシャッタースピードを先に決め、これに応じて絞りを加減すると合理的にできます。

絞	り	値	1.5	1.8	2.0	2.8	(3.5)	4.0	5.6	8.0	11	16	
露	出	比	率	0.56	0.8	1	2	(3)	4	8	16	32	64



レンズによつては最大口径の絞り値だけは、次段の絞り値との間に必ずしも明るさが半減する関係になつていないことがあります。シャッタースピードと絞り目盛とを決めるには、露出計や露出表を用いると便利です。

距離目盛 目盛られた数字はピントを合せた被写体とフィルム面との距離を示すもので、距離指標に合う目盛を読みます。フィルムは外部から見えませんがカメラの上部カバーに付いているフィルムマークはフィルム面に一致していますから、これでフィルムの位置を知ることができます。この

距離目盛は普通の撮影では必ずしも必要ではありませんが、被写界深度を求めるときやフラッシュ撮影などの場合必要になります。

フィルムマーク



被写界深度目盛 一つの被写体にピントを合せたときは、この被写体の前後一定範囲の距離にあるものも鮮明に写ります。この範囲を被写界深度といつてレンズの焦点距離、絞り値及ピントを合せた被写体までの距離によつて異なります。焦点距離が短いほど、レンズを絞るほど、撮影距離が遠いほど、この深度は深くなり、逆に焦点距離が長いほど、レンズの絞りを開くほど、又撮影距離が

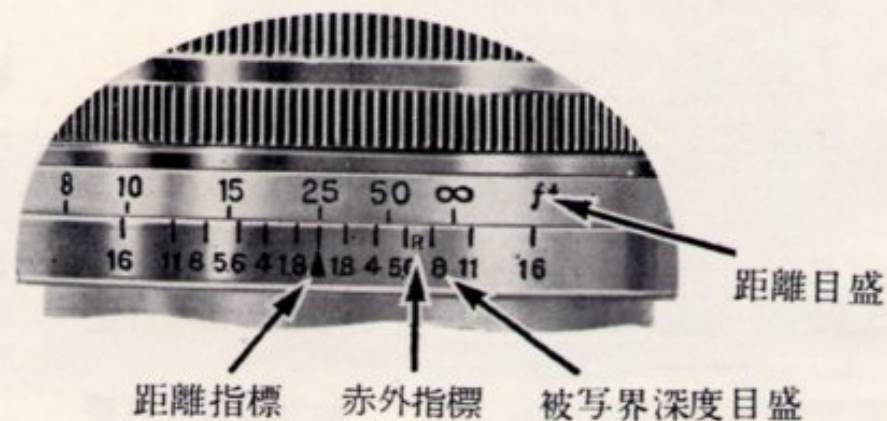
近いほど浅くなります。被写界深度目盛は絞りと同じ数字が距離指標をはさんで両側にならんでいますが、使用しようとする絞りと同じ二つの数値に対応する距離目盛の読みが、その絞りでの前後の深度を示します。

例えば焦点距離 50 mm のレンズを使って 25 ft. の距離で $f:1.8$ に開いて写すとき被写界深度は 20 ft. から 30 ft. の範囲にありますが、 $f:11$ に絞ると深度は 12 ft. から ∞ までに深くなります。

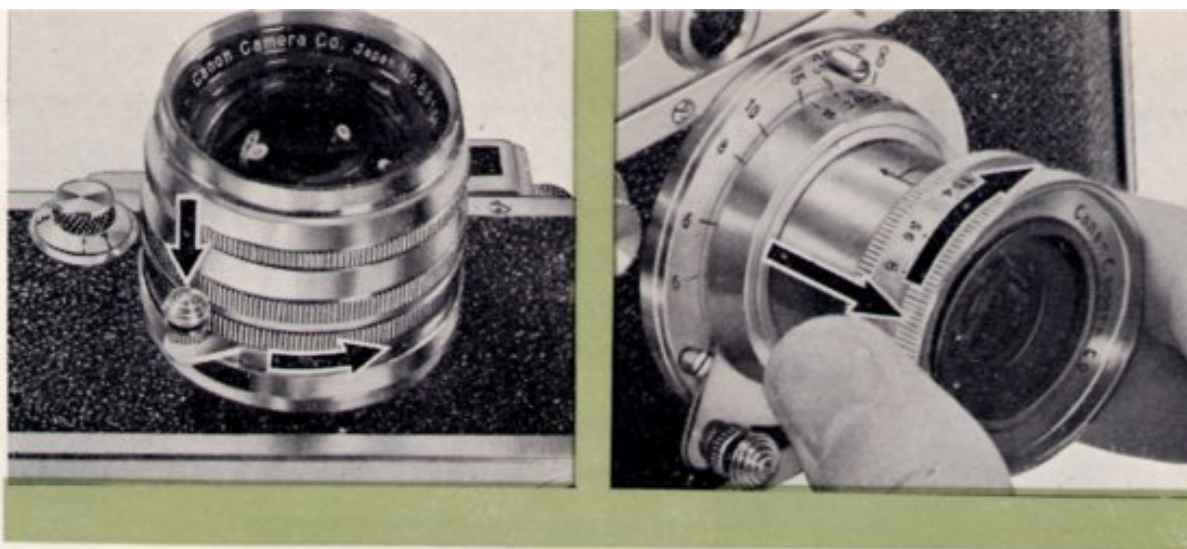
赤外指標 (赤外マーク)

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれるので、修正を要します。赤外指標はこの修正の目安です。目測その他での距離に合せる場合は、距離指標の代わりに赤外指標を基準にして、距離目盛を合せます。又後述のレンジ・ビューファインダーによる場合は、一旦レンジ・ビューファインダーで普通にピントを合せ、次に距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外指標まで移動させます。

赤外指標は 8000\AA 程度の波長に最大感度を持つフィルムと赤外フィルターと(例えばコダック IR135 フィルムとラツテン 87 フィルター)を用いる場合を標準にして付けてありますから、赤末部を使用する場合、例えばプラス X、或は一般のパンクロフィルムにラツテン 25 程度の赤色フィルターを、添用する際などには、修正移動を $1/3$ 位とするのが適当です。



5 ピント調節



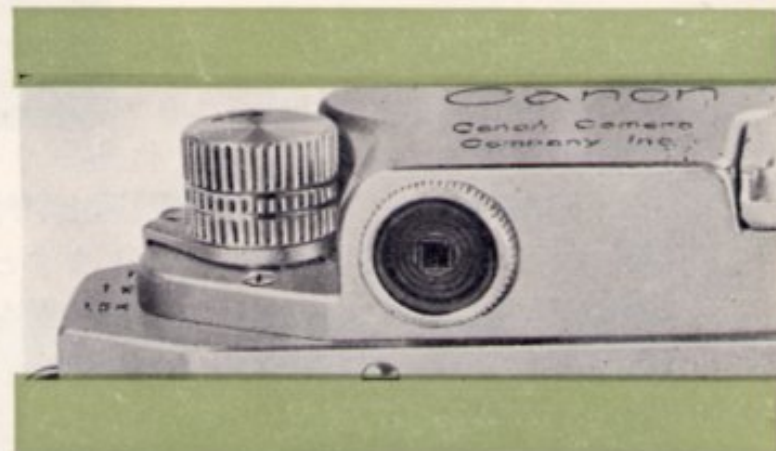
ピント調節レバー つまみに無限遠止が付いていますから、つまみを押して、無限遠止を外しながらレバーを廻します。ピント調節レバーを廻しますとレンズが進退してピントの調節が出来ると同時に、内部で距離計の機構が連動してピントの合っている位置を示すことになります。

無限遠止のあるピント調節レバーは、焦点距離 50 mm 以下のレンズだけに付いています。それ以外のレンズは直接に調節胴を持って廻します。

キヤノンレンズ 50 mm f:3.5 だけは沈胴式になっています。使用の際は鏡頭を持ってレンズを静かに真直に引出し、止るまで右に廻して固定します。引出すのを忘れて、廻して固定しないとピンボケを起すおそれがあります。

変倍式レンズ・ビューファインダー カメラを頬に押し付ける様にして、眼をレンズ・ビューファインダー覗き窓に近づけ、これを覗きながらピント調節レバーを指先で廻しますと、四角な視野の中央稍明るい円形輪廓内で、被写体の二つの像が重なつたり離れたりします。二重像が完全に合致したとき、レンズはその被写体にピントが合います。四角な視野はその際の画界を示します。

二重像を合せるには主被写体の像が、中央の円形輪廓の中心に見える様にします。特に近距離被写体に対しては大切です。



このレンズ・ビューファインダーは F(0.67x), 1x, 1.5x の三つの異なつた倍率に変えることができます
各種焦点距離のキャノンレンズは交換使用することができ、何れもレンズ・ビューファインダーに完全に連動します。



F



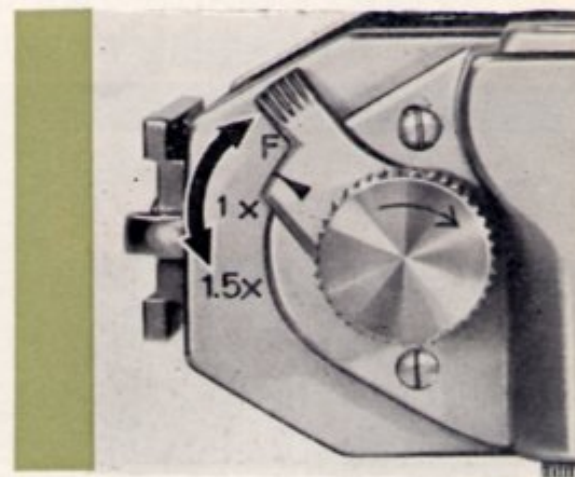
1X



1.5X

レンジ・ビューファインダー変倍レバー を切換えるとキヤノン独特の変倍式レンジ・ビューファインダーは、F(0.67x)、1x、1.5xの三つの異つた倍率の視界を示します。レバーを1.5xにセットすると、像は1.5倍に拡大されますから、像が合せ易く従つて正確にピントの調節ができます。F、1x、1.5xの視界は又それぞれビューファインダーとして焦点距離50mm、100mm、135mmレンズの画界を示します。

何れの視界でも距離計調節はできますが、50mm標準レンズの場合などでは、1.5xの像で精密にピントを合せ、次いで変倍レバーをFに切換えて、構図を決めるようにするのも結構です。



バララックス レンジ・ビューファインダーに見える視界は、厳密には撮影距離が近いと、レンズの画角との間にバララックス(視差)を生じます。それでレンジ・ビューファインダーの視界は、実際の画界より少し小さく取つてあつて、僅かの視差は差支えないようになっておりますが、場合によつてはこれを考慮しなければならぬこともあります。

50 mm レンズ用

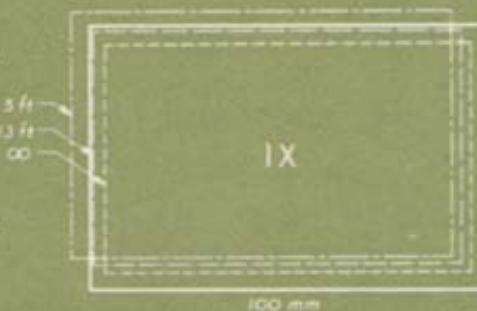
50mm レンズ用としてレバーを F にセットした場合いろいろの距離に対するファインダーの視界と、50mm レンズの画界との違いは図の通りで僅かの視差はありますが実際撮影では無視できます。



- 50mm レンズの画界
- - - - - 3.5 ft. のときの視界
- - - - - 12 ft. のときの視界
- - - - - ∞ のときの視界

100 mm レンズ用

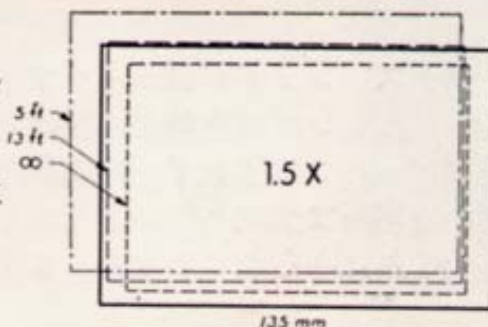
100mm レンズ用としてレバーを 1x にセットした場合の視差は、13 ft. より遠距離では目立ちませんが、それより近距離では考慮が必要になります。



- 100mm レンズの画界
- - - - - 5 ft. のときの視界
- - - - - 13 ft. のときの視界
- - - - - ∞ のときの視界

135 mm レンズ用

135mm レンズ用としてレバーを 1.5x にセットしたときの視差は 13 ft. でも無視できなくなっています。

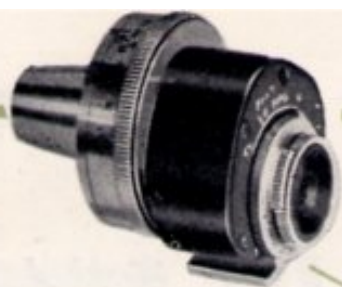


- 135mm レンズの画界
- - - - - 5 ft. のときの視界
- - - - - 13 ft. のときの視界
- - - - - ∞ のときの視界

アクセサリクリップ



フレームファインダー



ユニバーサル
ビューファインダー



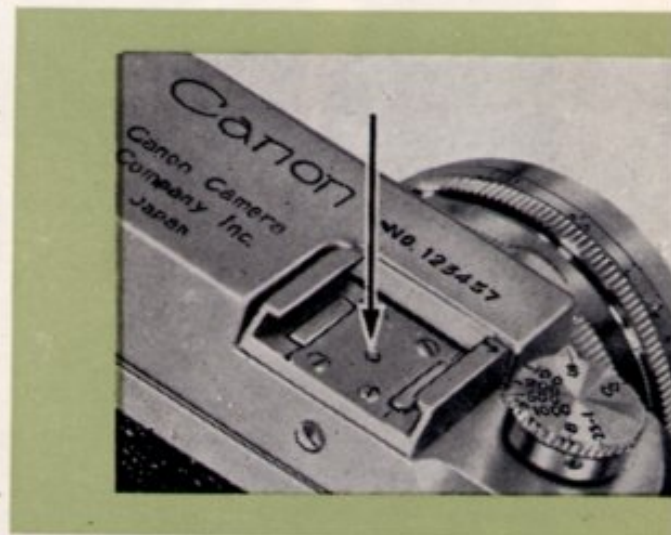
スペシャル
ビューファインダー



フラッシュユニット B-III

アクセサリクリップ

各種レンズの専用ビューファインダー、ユニバーサルビューファインダーその他種々の付属装置を取付けるために用います。





6 キヤノンの構え方

横位置の撮影にはカメラの両端を左右の手で、つかむように持ち、右人差し指を軽くシャッター押ボタンに当て、右人差し指をピント調節レバーのつまみにあて、両肘を体にピッタリつけて、しつかりと構え、眼をファインダー覗き窓に近づけて、前に述べた方法で主被写体に正しくピントを合せた後、ファインダーを通して被写体の構図を決めます。構図が決つたらシャッター押ボタンを静かに押します。

シャッター押ボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。



縦位置撮影の場合には、二つの構え方があります。

第一法：

カメラの上部を右に向けて、右手で前方から持ち、右肘を身体にピッタリ付けて、右拇指をシャッター押ボタンに当て、左手は上から軽くカメラを支えます。

拇指先がシャッターダイヤルに触れない様に注意が必要です。手袋をはめたときは特に気を付けなければなりません。 18



第二法：

横位置の場合と同様な持ち方をしながら、右手を上を廻してカメラを縦位置に変え、左肘を身体にピッタリつけて、しつかりカメラを保持し、右手は肘が上るので軽く支えるだけにします。

この場合はシャッターを押す右手が不安定な位置にありますから、左肘は特にしつかり固定しないとカメラブレを起します。

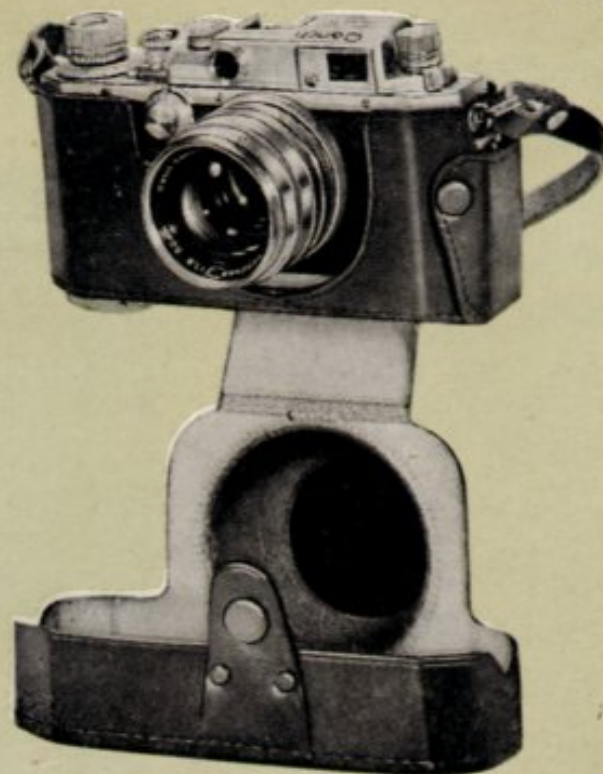
T. B. は勿論のこと 1/25 秒より緩いシャッタースピードで撮影するとき、三脚にケー

ブル リリースを使用するのが常道です。更に安定を確実にするためにキヤノン カメラホルダーをお薦めします。

速写ケースを使用すると、キヤノンの携帯使用に便利で、損傷を防ぎ、永くきれいに保たせることができます。キヤノンを速写ケースに入れたときは、底の三脚止ねちをカメラの三脚ねち孔にねち込んでおきます。

速写ケースが新しいときや縦位置撮影のときは、うつかりするとケースの蓋がレンズの前に出て、邪魔することがありますから注意を要します。ケースの蓋は取っておくこともできます。

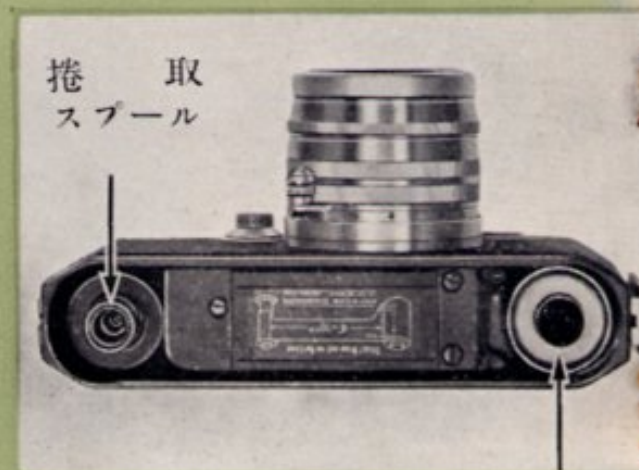
極寒地ではカメラは撮影時以外直接外気に触れさせぬ様保護し、又手速く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずすみませぬ。撮影に取出す場合も、徐々に外気に触れさせませぬと、水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。



7 ファイルムの装填

底蓋にある開閉つまみを起し、指標を **Close** から **Open** へ半廻転して底蓋を開き、マガジンと、捲取スプールとを取出します。

捲取スプールのつまみが持ちにくいときはつまみの頭を押し気味に少し左廻転させると、ばね仕掛で、つまみが伸び出ます。

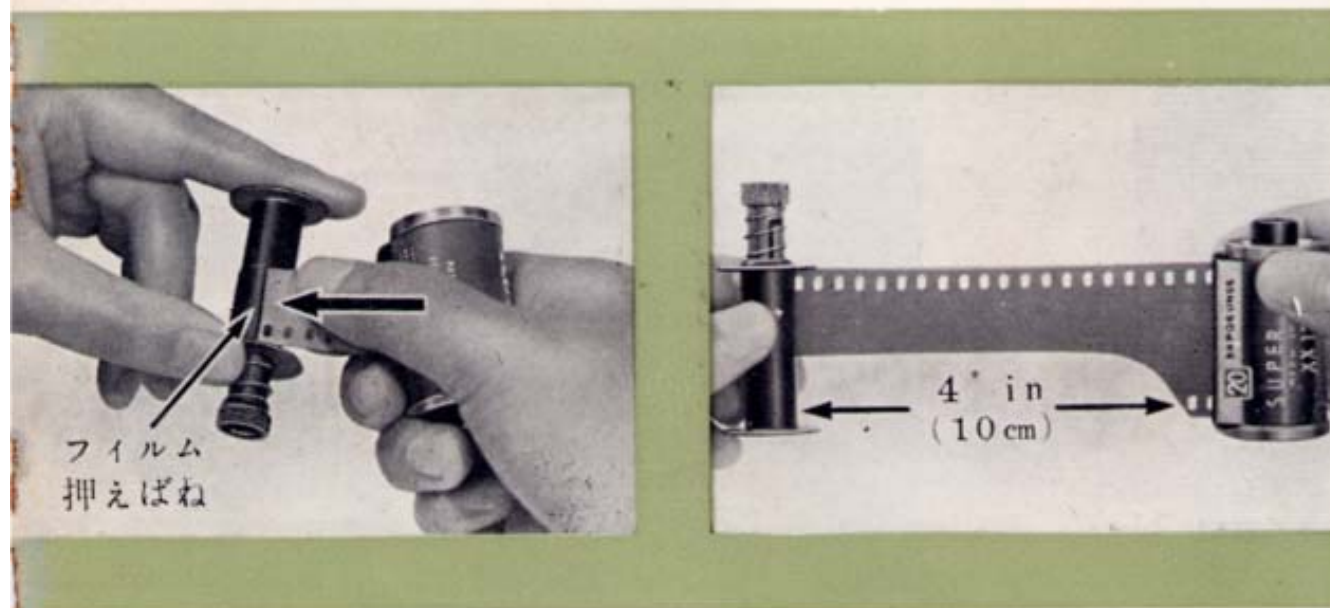


フィルムマガジン

キヤノンカメラは市販の 35 mm 日昼装填用カートリッジを使うことができます。しかし長巻の 35 mm ファイルムを使うときはキヤノン専用マガジンが便利です。

ファイルを装填するには光線の弱いところでレンズキャップをかぶせたまま行うことに御注意下さい。

捲取スプールとマガジンとを左図の様に持つてフィルムリーダーの先端を捲取スプールのフィルム押へばねに、矢印に従つて挿し込みます。その際フィルムの挿込みは十分確実にして、みだりに抜けない様に注意を要します。フィルムは裏面（光沢面）がスプールに接することになります。

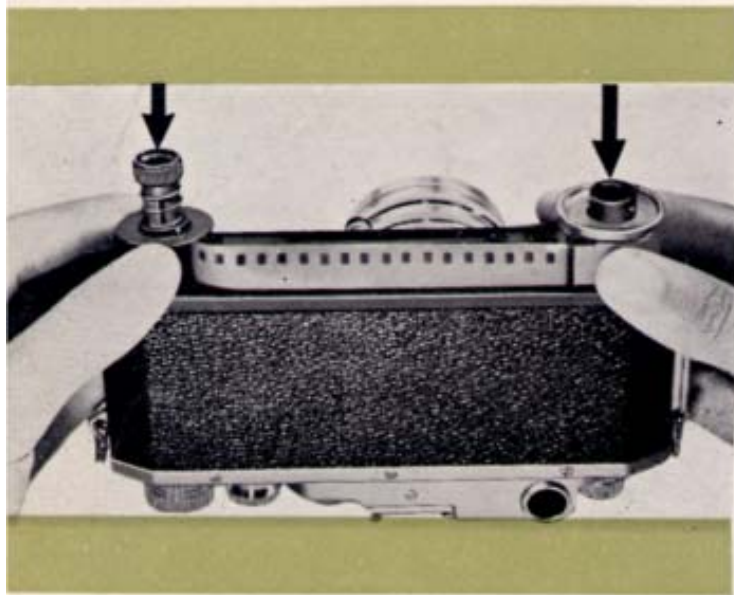


挿込んだフィルムはパーフレーション側の縁がスプールの罫から離れず又フィルムの縁と罫とが平行しなければなりません。

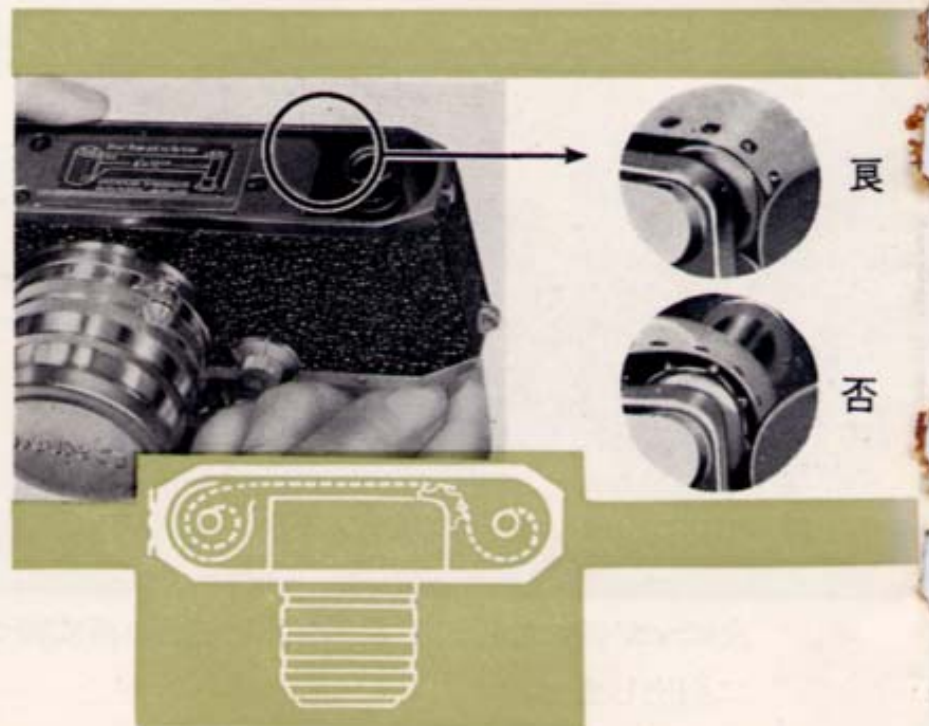
次にマガジンと捲取スプールとを左図の様に持つて約 4 in (10 cm) のリーダー部分をマガジンから静かに引出します。

フィルムリーダーの引出しは多くても少くても装填に不都合です。

引き出したフィルムをマガジン及スプールごと、左図のようにカメラ内に平らに十分挿込みます。
 マガジン側が十分挿入できないときは、捲戻つまみを引出して、マガジンを押しながら僅かに廻すと完全に入ります、



捲取つまみを静かに少し廻してパーフレーションをスプロケットに完全に啮合させます。



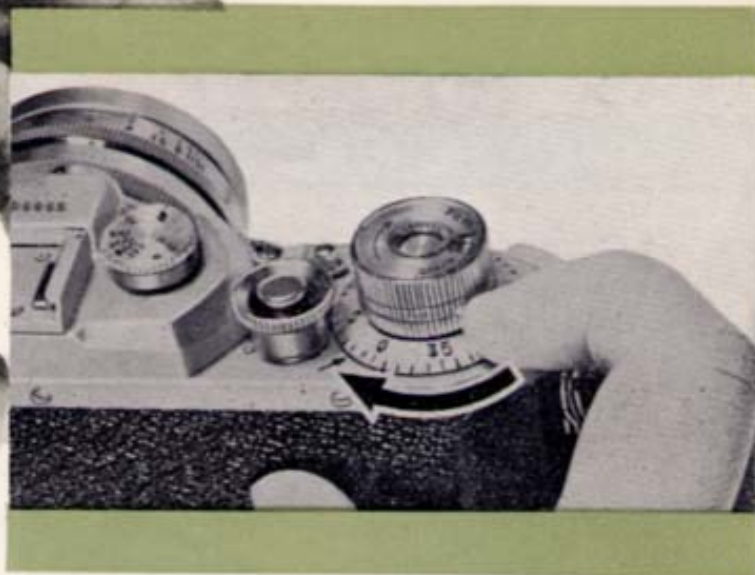
点線はカメラ内でフィルムの径路を示したものです。

底蓋の耳孔をカメラの突起にはめてかぶせ、
開閉つまみを廻して **Close** に戻します。

フィルムの装填後底蓋はみだ
りに開いてはなりません。



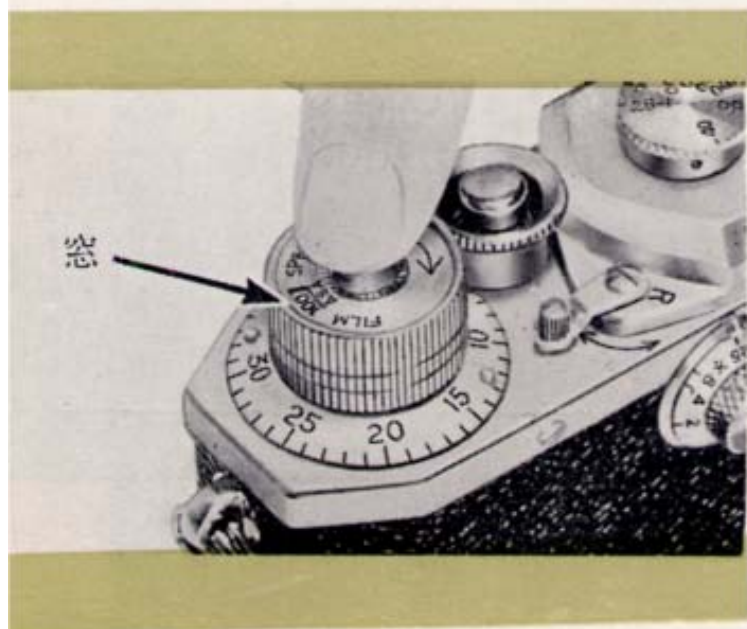
戻巻レバーがAにセットしてあ
ることを確かめ、巻戻つまみを矢
印の方向に静かに廻してマガジ
ン内のフィルムの弛みをなくし
ておきます。



レンズキャップを被せたまま、巻取つまみを廻して
二回シャッターを切り、リーダー部分のフィルムを
巻取ります。二回目のシャッターを切る前に指先を
枚数盤の突起に掛けてこれを廻し、目盛の0を指標
に合せます。次に巻取つまみを巻上げて一枚目の撮
影をします。

注 意

捲取つまみを廻すごとに、捲戻つまみは逆の方向に廻ります。このことはフィルムが正しく捲取られているか否かを示しますから、捲上げの際はいつもこれを見る様にするのがいいことです。もし廻らなければ、フィルムの端がスプールから抜出しているか、ペーフレーションがスプロケットから外れていることとなります。その場合は一旦取出して装填し直さなければなりません。



フィルムスピード表示盤 使用フィルムのスピードや種類を表示しておくもので、捲取つまみの上面中心にあるローレット部を指先で押しながら廻しますと、小窓に表示が現れます。表示のスピードは ASA で黒字は普通フィルム用、緑字はデイトライトカラーフィルム用、赤字はタングステン光カラーフィルム用です。(II-D には付いていません。)

8 ファイルムの捲戻



フィルムが終りになると捲取つまみは捲けなくなりますから、捲上を中止して捲戻をします。先ずシャッター押ボタンを押してシャッターが戻っていることを確めた後、捲戻レバーを R に移し、捲戻つまみを引上げて矢印の方向に廻し、フィルムを元のマガジン内に捲戻します。捲戻操作中シャッター押ボタンは廻転し（押ボタンの赤点が動きます）フィルムが捲取スプールから抜けてスプロケットから外れると同時に止ります。この押ボタンの廻転が止つたら捲戻操作を中止して、捲戻レバーを再び A に戻し、底蓋を開いてマガジンをカメラから取出します。捲戻の際は必ずレンズキャップをすることを習慣にするのは最も結構なことです。

9 レンズの交換

カメラを背部から平らに持ち、他方の手でレンズの基部をつかんで、左廻

しに廻します。その際はじめだけ少し力を入れてねちを弛め、弛んだならば静かに廻して取外します。ピント調節レバー付のレンズは無限遠止をロックしたままねちを廻してかまいませんが、長焦点及望遠レンズ等無限遠止のないレンズでは、先ず距離目盛を最近距離まで廻してヘリコイドを伸び出させておき、次にレンズ基部のローレット部分を廻してねちを緩める様にします。これは連動距離計に無用の衝動を与えないための心遣いです。

レンズの取外し



取外したレンズはヘリコイドの端面を傷つけたり塵埃の入つたりしないように、プラスチック製レンズケースに納めるか、ヘリコイドカバーを被せておきます。レンズに指先その他を触れてはいけません。埃などの付いたときは極く柔い刷毛で軽く払うようにします。

レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。別のレンズをすぐ取付けられる様に用意しておいて、なるべく光線の弱い場所、若しなれば自分の身体の蔭などで手早く交換取付を行います。

レンズの取付け



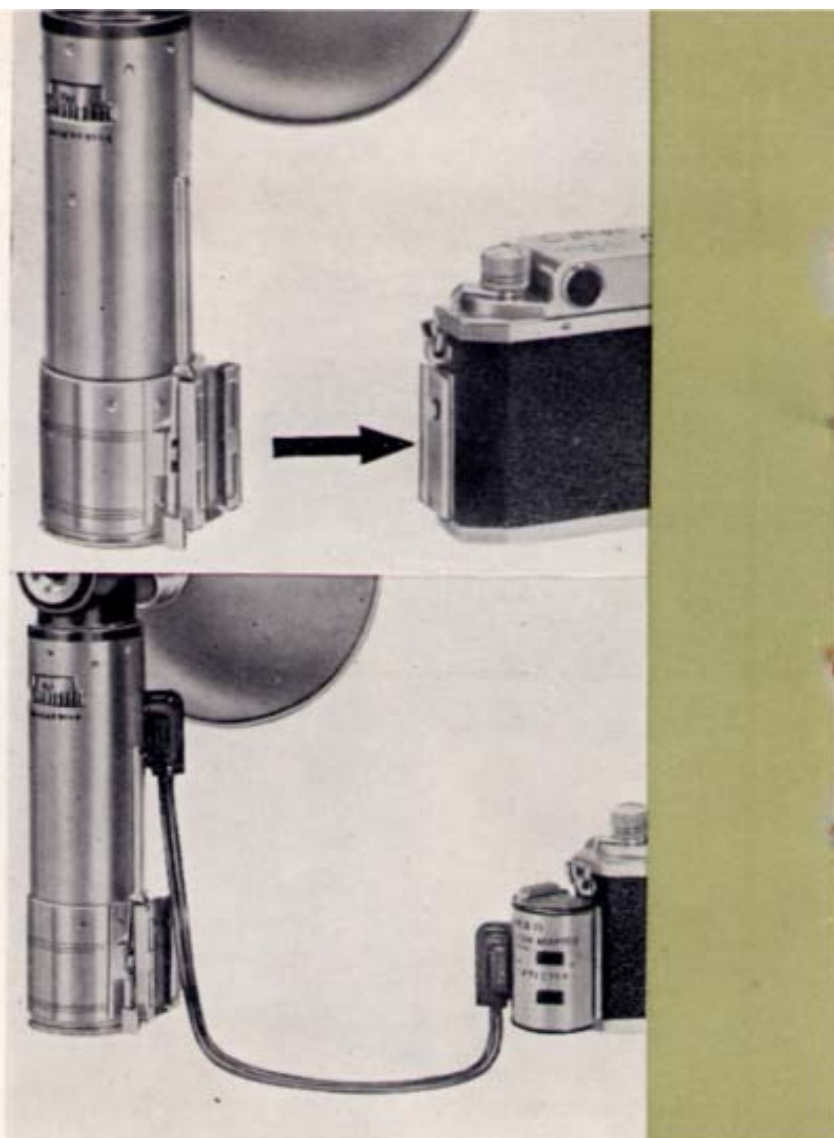
ヘリコイドカバーを取去つた後カメラの取付座金に静かに差し込みます。ねち込みの初め、レンズを特に左廻しに少し廻しますと、容易にねちが合いますから、そのときあらためて右廻しに廻し十分止るまでねち込みます。洗胴式レンズではあらかじめレンズを引出しておくこと又長焦点及望遠レンズの場合はヘリコイド伸びを出させておいてねち込むことが必要です。

撮影時以外はレンズには常にキャップを被せておきます。太陽の直射光線がレンズを通つてカメラ内に入るのは禁物です。ウツカリするとレンズが太陽の像をシャッター幕面に結んで、これに焼孔を作ることがあります。

10 フラッシュ同調

フラッシュユニット用ブラケットはキヤノンフラッシュユニットを取付け、取付けと同時にその端子を通じてキヤノン内部のフラッシュ同調装置に、自動的に電路の接続をします。又セルフエクステンションアダプターを取付けて、フラッシュユニットをカメラから引離して使用したり、スピードライトユニット(ストロボフラッシュ)などの他のフラッシュユニットを接続使用するのに用います。

フラッシュ同調装置は高速シャッター用回路と低速シャッター用回路とがあつて、これらはシャッタースピード調節の際、スローシャッターダイヤルによつて自動的に切換えられます。スローシャッターダイヤルには別にXの目盛があつてスピードライトに用いられます。(II-Dには同調装置はありません)



高速シャッター用同調

1/1000—1/25 秒のシャッタースピードの場合の同調で、主として FP パルプ用であります。マイクロシンクを用いますと 1/25—1/60 秒程度でピークパルプの使用もできます。

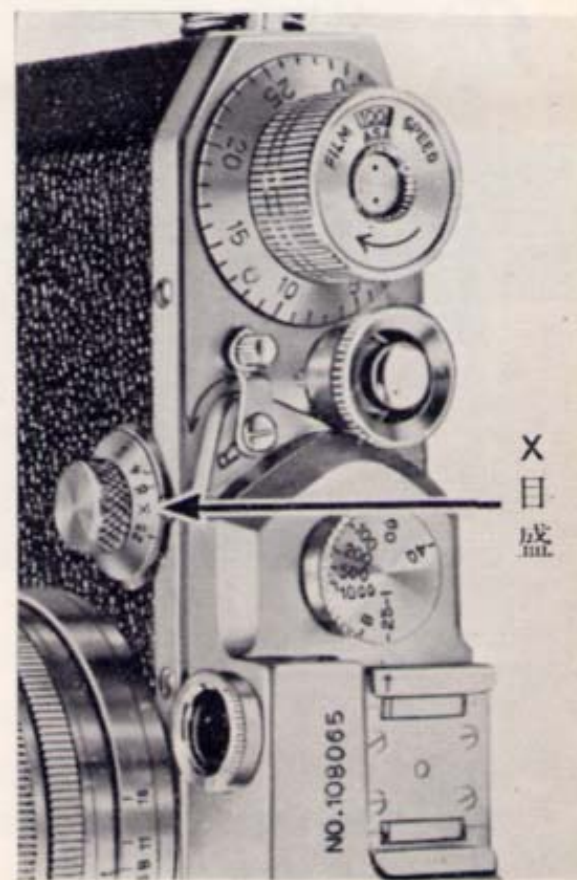
低速シャッター用同調

1/8 秒もしくはそれよりおそいシャッター用で、すべてのパルプに同調します。

スピードライト同調

の場合だけは特に低速シャッターダイヤルを X の目盛に合せ、高速シャッターダイヤルを 25-1 に合せます。スピードライトとフォーカル プレーン シャッター

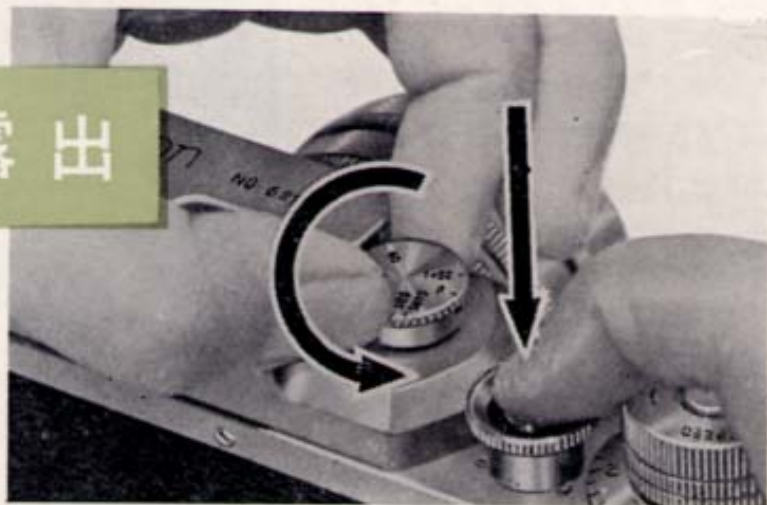
ーとの特性上、この場合のシャッターは 1-25 秒に限られます。スピードライト ユニットが接続してあるとき又はフラッシュユニットの接続でパルプの入っているときは、シャッター捲上のしてない場合でも、シャッター押ボタンを押すと発光しますから御注意下さい。



11

特殊の操作法

二重露出



二重露出 シャッター押ボタンを右手で押下げておき、高速シャッターダイヤルを左手で左廻転に途中放さずに、止るまで廻すとカチツと音がします。その音が聞えたら先ず右手を押ボタンから放し、次に左手を高速シャッターダイヤルから放します。こうするとフィルムを送らずにシャッターだけ捲上げることができます。この方法を繰り返せば、同一フィルム上に幾重露出でも与えることができます。

二重露出の操作をするとき、捲取つまみを不用意に廻さぬよう注意すること。又高速シャッターダイヤルを廻す際、指先を途中でダイヤルから放さず、且押しつけ気味に廻すことが大切です。

この操作は IV-Sb だけ出来ます。

カメラを海水に落したときは時を移さず清水で洗つて、あり合せの油に漬け、それから修理にお出し下さい。グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります。

フィルムの途中交換 装填前フィルムに図の様にV形ノッチを入れておくこと、巻取つまみを巻上げておいて装填することが必要です。装填の際つまみを手加減してV形ノッチの次のパーフォレーションを図のようにスプロケットに噛ませます。こうすれば途中で何回巻戻し、装填を繰り返しても最初と全く変わらない状態で撮影を続けることができます。高価なカラーフィルムを使うときなどに便利です。フィルムには端に撮影枚数を記入しておいて、次の装填のときその枚数だけ巻取ります。

フィルムの途中切断 レンズキャップを被せたまま3回シャッターを切り、巻戻レバーをRに移して暗室内で底蓋を開き、スプロケットと巻取スプールとの間に鋏を入れてフィルムに切目を付けます。次に普通の様に巻戻をしてからマガジンを取り出し、先きの切目までフィルムを引出して切断します。残りのフィルムはリーダーを作つて又装填することができます。

フィルムの途中交換

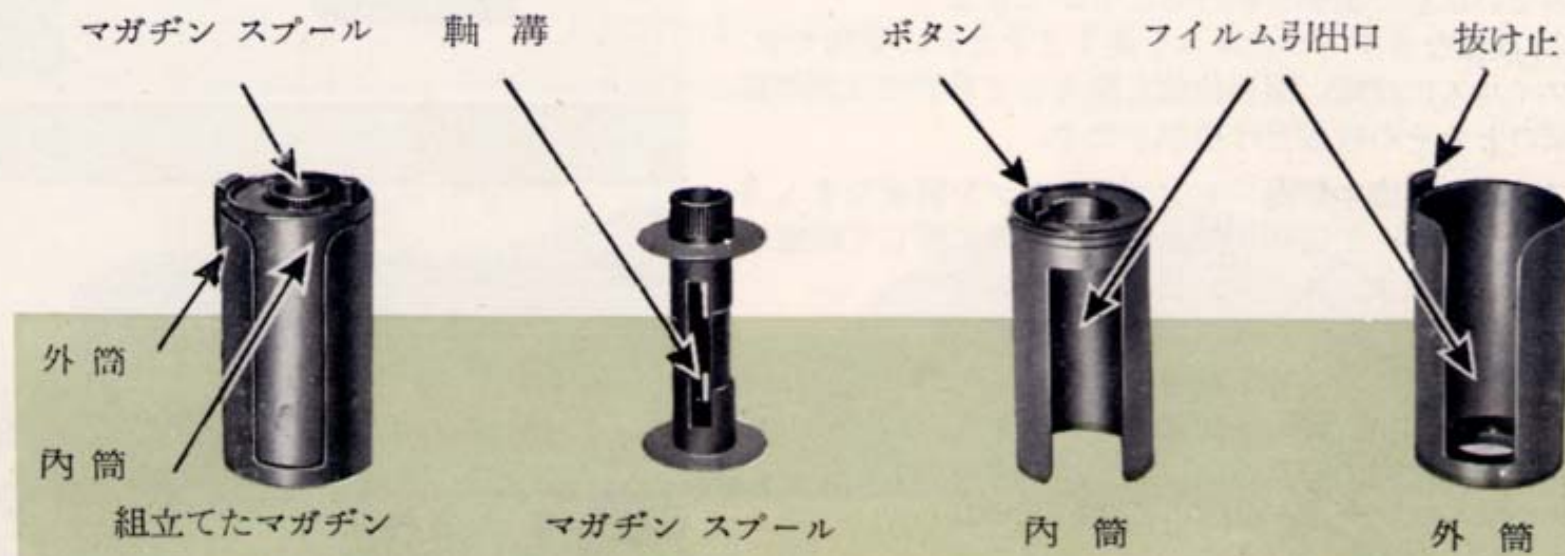
フィルムの途中切断

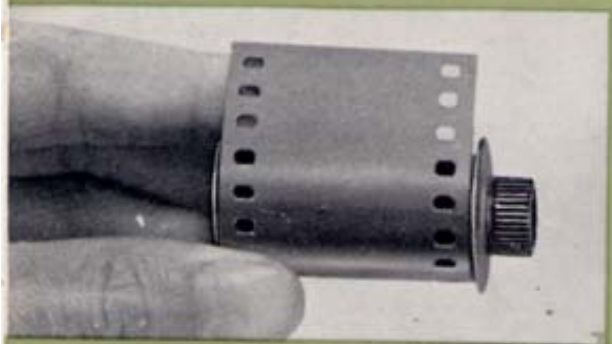
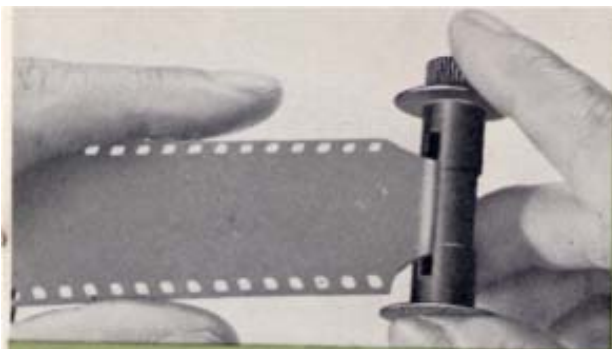
パーフォレーション
5つ分



12 キヤノン専用マガジンとフィルムの詰め方

キヤノン専用マガジンは 5 ¼ ft. (160 cm) の 35 mm フィルムが入り、24×36 mm の写真が 36 枚とれます。このマガジンは内筒、外筒及マガジンスプールの 3 部分から成立っています。マガジンを分解するには上部のボタンを押して、反対側の爪を切欠部から外しながら内筒を右廻しに廻し、その鏝の切欠を外筒の抜止めに合せると自然に抜出します。





図のようにスプールを持ちフィルムの裏面（巻癖の外側）を手前にして、V形に切った先端をスプールの軸溝に広い方から十分差込みます。その際少し引戻してみて、戻止めが十分かかるようにします。

フィルムは溝の先方にはラクに通ります。

フィルムの膜面を内側にしてスプールに巻取ります。

巻取るとき膜面に指先を触れてはなりません。又ゆるく巻いて、あとから強く巻き締めると膜面を傷つけるおそれがあります。

36枚撮には 5 $\frac{1}{4}$ ft. (160 cm), 20枚撮には 3 $\frac{1}{4}$ ft. (100 cm)
18枚撮には 3 ft. (92 cm) のフィルムがいます。

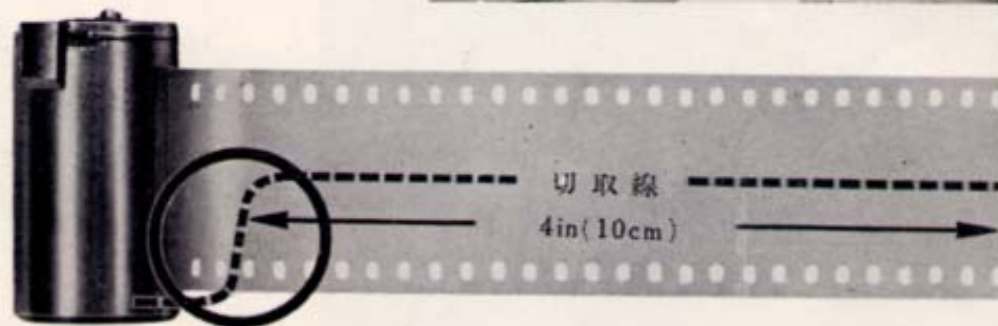
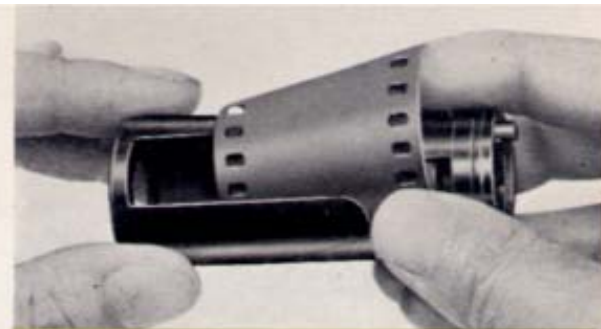
フィルムのリーダー部分を少し引出口から出してスプールのつまみの方から内筒に差込みます。

右の操作は暗室内で安全灯
下か暗黒下で行わねばなり
ません。

長巻フィルムを使うときは
マガジンに填めた後、その
リーダー部分を引出して図
のようにフィルムの下側を
切取ります。

次にその内筒をフィルムの
引出口が合うようにして外
筒にさし込みます。

完全に入りましたら内筒を
左廻しに廻すとパチンと音
がして安全止めの爪がかか
ります。



御質問にお答えして

問 1. シヤッターダイヤルは目盛の中間にセットできますか.

答 高速ダイヤルは目盛の中間にセットした場合シヤッターは切れますが正確には作用しません. 低速ダイヤルは $1/25 \sim 1$ 秒の間ならば中間でも使えないことはありませんが折角クリックストップになつている所でもあり強いて使うことはないと思います.

問 2. 高速ダイヤルは何れの方向に廻してもかまいませんか.

答 旧い型ではストップがありました但现在ではどちらに廻しても差支えありません.

問 3. 捲上げをする前にシヤッターダイヤルを調節すると不都合がおこりますか.

答 捲上げた状態で指標を合せるようになつているところですから正確な位置を知るのに不便でしょう. その他には不都合ありません.

問 4. $1/25$ 秒よりも速いシヤッターを切る場合に低速ダイヤルが $1/25$ 以外にセットされていたらどうなりますか.

答 シヤッタースピードだけの問題ならば差支えありません. しかしフラッシュの場合は同調しませんから平素から低速ダイヤルを 25 に戻しておくように心掛けるのがよいと思います.

問 5. 捲上げの初めに一寸ひつかかる感じがし又捲上げの途中で軽くカチツト音がしますが故障ではありませんか.

答 機構上そうなるもので故障ではありません.

問 6. 捲戻しの際捲戻しレバーを R に移す前にシャッター押ボタンは必ず押さなければなりませんか.

答 捲戻しレバーを R にすると捲上げられているシャッターも自動的に戻るようになっていきますから普通は押ボタンを押す必要はないわけです. しかし僅かの捲上げで止つてしまつたような際に自動的に戻した場合は極く稀れではありますが十分閉らないことがありますから, いつも押ボタンを押すことにした方が安全です.

問 7. IV-Sb で簡単にフラッシュのテストをする方法がありますか.

答 フラッシュ ユニットを正式に接続しバルブの代りにテストランプを入れシャッター押ボタンを空押してランプが点灯すれば回路に異状がないと見なせます. 但しマイクロ シンクは off にしておく事が必要です. アデイショナル キャパシターを用いた場合はこの方法は用いない方が安全です.

カメラやレンズの紛失, 盗難に際しては警察関係の届出のほか, 最寄のカメラ材料店に御相談下さい. 店では僅かの費用で全国の業者に連絡し, 品物の発見に御協力申上げることができます.

カメラやレンズの番号はいつでもわかる様な御心づかいを御薦め致します.



135mm f: 3.5
100mm f: 3.5
85mm f: 1.5
85mm f: 1.9

Canon LENSES

交換レンズ

50mm f: 1.5
50mm f: 1.8
50mm f: 3.5
35mm f: 2.8
28mm f: 3.5

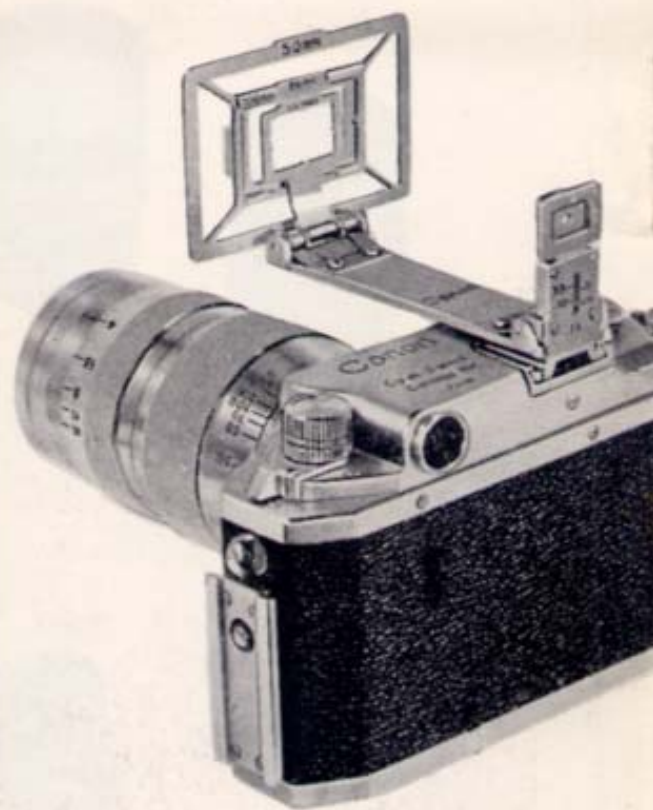
キヤノン ユニバーサル ビューファインダー



焦点距離 35 mm から 135 mm
に至る各キヤノンレンズの画界
に自由に合せることができ明快
闊然とした視野を示します。パ
ララックス匡正装置及視度補正
装置が付いています。

キヤノン フレーム ファインダー

焦点距離 50 mm, 85 mm, 100
mm, 135 mm の各レンズに兼
用されスポーツ等の動態或は夜
間等の暗部撮影に便利です。パ
ララックス匡正ができます。



キヤノン
フラッシュユニットY型

キヤノン
サイドライティングユニット



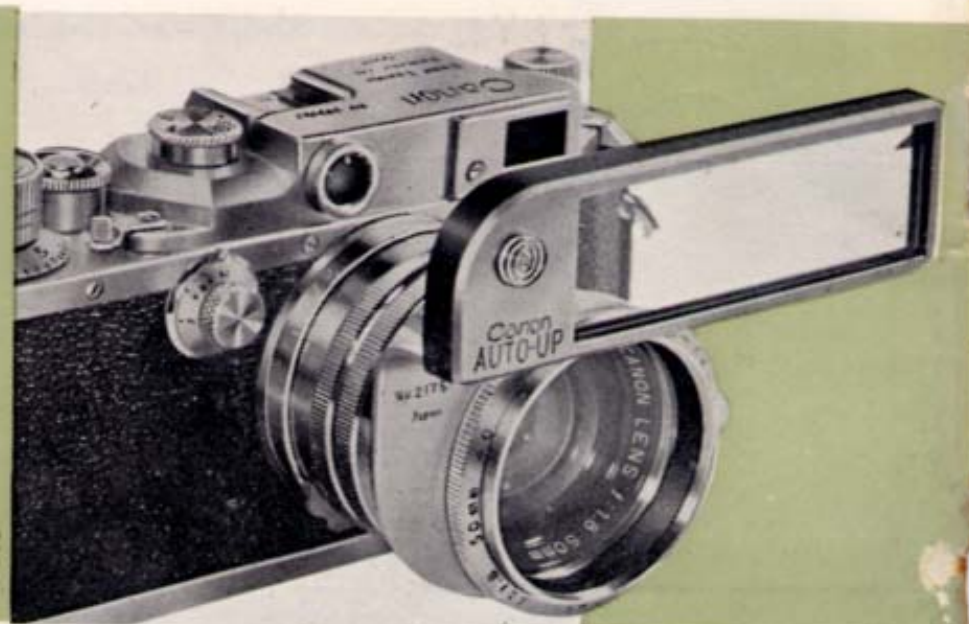
キヤノン カメラ ホルダー



キヤノン独特の設計で三脚使用の場合カメラを安定堅固に保持し横位置縦位置の変換が簡便にできます。水準器も付いているので水平が確実に出せます。

41

キヤノン オート アップ



キヤノン 50mm レンズに使用し 40吋から 22吋の距離内の被写体に対して完全に距離計連動で接写を行うことができます。

50mm { f:1.5 用 f:3.5 用
f:1.8 用



キヤノン複写装置

キヤノンカメラ及キヤノンレンズを利用する近接撮影用の装置で、ピント硝子を覗いて精細にピント及画面の調整をした後ピント硝子とカメラボデーとを転換してこれを写し取るものです。印刷物、文書、図面、写真或は諸標本等の複製、記録保存等広い用途に極めて便利であります。撮影範囲は大体汎胴式 50 mm キヤノンレンズでは 1/17~1/1, 固定胴式 50 mm キヤノンレンズでは 1/7.5~1/1 になります。定置用台板式と台板兼用ケース入の携帯式とがあります。

キヤノンカメラ株式会社 東京・大田区・下丸子